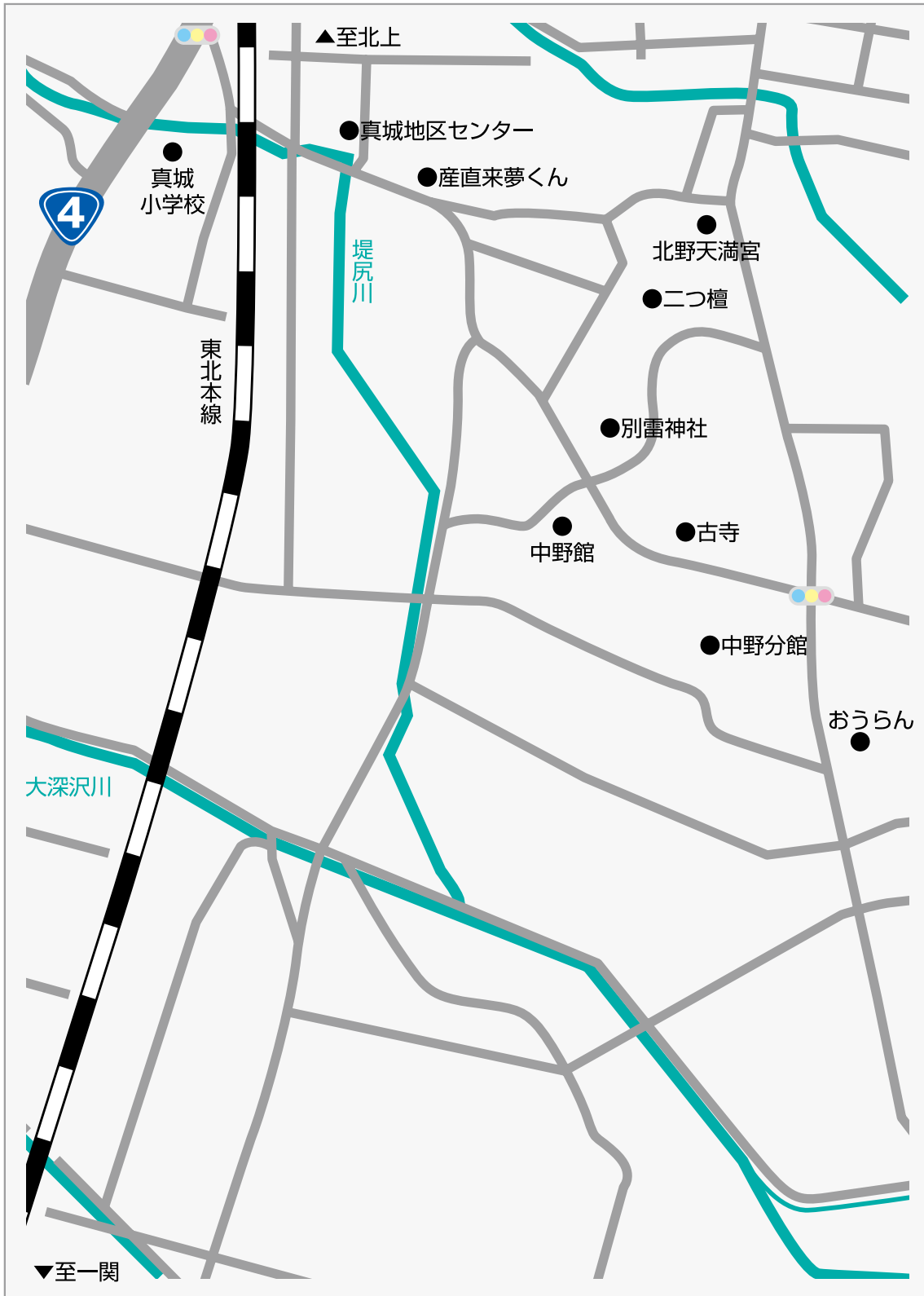


真城の歴史を巡る中野の散策

2008.7.21



別雷神社（雲南さま）



中野概要

安永風土記によると、中野村本郷に属しています。

中野村本郷 上中野—荒谷・金田・北野・杉の下・東谷地・館・中平・畑ヶ田・ 東五郎兵衛
下中野—植田・下谷地・島田・下植田・西田・前堂地・谷地田

- 旧跡—真城寺旧寺跡（上田）
- 古寺場—真城寺の移転場所（畑ヶ田）
- 神社—雲南権現社（雲南）神明社（荒谷）山神社（上田）山神社（中野平）
幸神社（荒谷）白山社（上林）
- 仏閣—弁財天堂（新要害）地藏堂（福田）
- 寺—法王山真城寺（上林）
- 修験—清香院（雲南）
- 古館—中野館 中世末期葛西氏の家臣千田与右衛門が城主。
- 屋敷数—谷地屋敷 14 軒 上田屋敷 10 軒 嶋田屋敷 9 軒 外 28 軒
- 代数之有百姓—六代相続 1 五代相続 2

地名の由来

- 植田（上田）—湿地を全部人力で耕した所から地名ができました。
地域内に寺田という地名があり、これは真城寺の寺領田だと言います。
- 荒谷—風土記に荒谷屋敷 7 軒とありますので古い集落となります。
周辺は田畑もあり古墳や碑などが点在します。
- 金田—金田屋敷と呼ばれた一帯から金屑が出土。鍛冶屋があった所。
- 北野—丘と田畑で昔は中野村の北端で原野でありました。石器、土器が出土しています。
菅原淳茂公を祭った天神様があります。
- 島田—水田地帯に島状に宅地があるところ。
- 館—平地に土塁、竹林、池濠をめぐらせた中野館のあったところ。
- 中平—中野平から中平へ。田畑のある平野部で西方に中野館。
- 畑ヶ田—平坦な田畑地帯。昔、金ヶ崎西根畑田から千葉氏が入りました。
- 東五郎兵衛—栗林の三代目五郎兵衛が買取り又は開拓して小作をさせた土地。
- 東谷地—旧中野村の東端に位置し、低地で沼などがあり湿地であったところ。
雲南さまの東方にあります。水田から埋れ木が出てきました。昔、沼があった所か？
- 谷地田—湿地帯の水田、地区内に西田刈又の地名があります。
- 西田—元真城寺の西の水田。また、ヨシ、ガツゴを毎年刈り取ったところ。
- 古寺（畑ヶ田）—天正 2 年に真城寺がこの地に移った。また焼けて現在地に移るまで 100 年この地
にあったということになります。
- 新要害（谷地田）—平泉藤原氏が上田（植田）の地に七堂ガランを備えた真証寺（真城寺）を建て叔
父の岳蓮良中上人を住職となし、護衛の為東方 20 メートルのところの台地に武士、町人を住まわせ
新要害とした。南方に「二反町」として町づくりを、北方に武士を住まわせた「館の越」という屋敷
がありました。東北には「ノガレ」東方に「バツカリコ」の地名があります。
（※「ノガレ」は逃げ口、「バツカリコ」は昔の水車の呼び名）

※中野地区は真城地区で古くから開発された所でした。堤尻川と志田見沢川の影響（流れ下った土砂、洪水など）を受け、人々は数少ない台地や微高地に住み集落を形成したと思われます。

※雲南権現社、真城寺、中野城などができると、人々の出入りが激しくなり戦火に見まわれた土地でもありました。相続代数が五代以上が3軒しかないのも気になる所でもあります。

※中世から近世まで下胆沢に属します。

「中野」の考察



ここ中野の平坦な土地は、北上川の流れが定まらず、川の氾濫が度々起こり、胆沢扇状地から流れ落ちる水が各所に沼をつくるなど、人々の住みよい環境ではなかったと思われます。

北上川の流路も固定し、段丘からの流れも沢をつくり、その流れも水路となって流れが定まると、平坦な中野地区は広大な野となり、微高地には人々が暮らせるようになりました。

広大な野は、北野、中野、向野と呼び分けられ、開拓が進み稲作が始まると、上田、下田、植田、谷地田などと細分化され、屋敷が建ち並ぶようになり、やがて真城の中心的な土地となり、室町末期には中野は歴史に残る地名となりました。

アテルイの頃から度々戦場となる中野は、胆沢城が造られる頃には、関東地方などから多くの移民があり、ここ中野にも住んだようです。林前、植田地区の遺跡の発掘によって、住居跡など暮らしの一端が明らかになってきています。

広大な平地は、その後も戦場となることが多く、歴史に載るような古屋敷は、残るものが少なかったと想像されます。

北野天満宮



京都の藤原一族が全盛の800年代、優れた学識者で右大臣まで上り詰めた菅原道真は、藤原氏に疎まれ、九州太宰府に流され延長元年（923）59歳で没しています。

その後、都では落雷火災など悪事が続き「道真の怨霊」と騒がれました。都の西京に住む女性にご神託がくだり、霊を鎮める祠を造ったが災難は収まらず、北野に神社を建立したのが、天満宮の始まりと云われています。

道真の妻子は、みちのく胆沢の地に逃れ、郡司のところにかくまわれました。

後に子どもたちは、それぞれ上姉体・下姉体と中野に住み、母は前沢区生母に住んだと言われ、一関市東山町田河津に夫人の墓碑があります。

また、道真の死を知った息子が、北野に神社を建立したのが北野天満宮とされ、道真の学識にあやかり、今は学問の神様として信仰されています。

北野の塚「二つ檀」



二つ檀の名はけっこう各地にあります。地名が生まれた背景は不明ですが、それぞれ歴史があると思われます。

近くでは、今は神明町になっている杉の堂遺跡の南、神明神社の東に二つ檀の地名がありましたが、残念ながら今は想像される地形も残っておりません。付近は佐倉河字中陣場や真城字上陣場、下陣場の地名があったところで、「陣場」という地名には歴史があります。

「段・壇」は、一般に儀式の為に祭壇を造った処とされますが、当時は大切なものを埋めた場所とも考えられます。

「塚」も同じような意味があり、風土記には柏山一族にかかわる男根切塚の伝説もありますが、一般的な塚は、道しるべの一里塚や藩境塚など分かりやすいものとしてあります。

中野の二つ檀は、地区民の語り伝えにより、破壊されることなく守られてきたことにこそ意味があり、謂われは不明ですが残し続けておきたいものです。



おうらん



平泉藤原氏に係わるお寺として、治承元年（1177）に中野の地区に建立されました。

当初の名称は「真証寺」で、平泉の宗派を含む天台宗でありました。

当時は、北上川の流が度々変わる湿地であって土地が悪く、二度の移転を繰り返し、又失火や兵火にあうなどして、元禄5年（1692）に現在地（大深沢上林）に移転されました。

この寺講の地には、古い墓石が残されており墓地として現存しています。

また、その片隅に中尊寺赤堂稲荷の分霊と言われる東目稲荷大明神の古い祠があります。



古 寺



真城寺二度目の地で、天正2年（1574）に兵火により焼失。古寺（真城字畑ヶ田、別雷神社の南方）に移転新築されたとあります。

しかし、百余年を経て埋骨地狭く、且つ湿地の為、再び元禄5年（1692）二十八世良乗上人代に現在地（大深沢上林）に移転されています。

なお、真城寺が上林に移転した後も、明治30年頃まで当地に埋葬していました。

「上中野郷土史」より

下植田遺跡

伊達藩がまとめた「安永（1770年代）風土記」に記載の「胆沢郡下胆沢中野村」には、屋敷名が65軒と報告されています。その中に「下植田屋敷1軒」とあります。

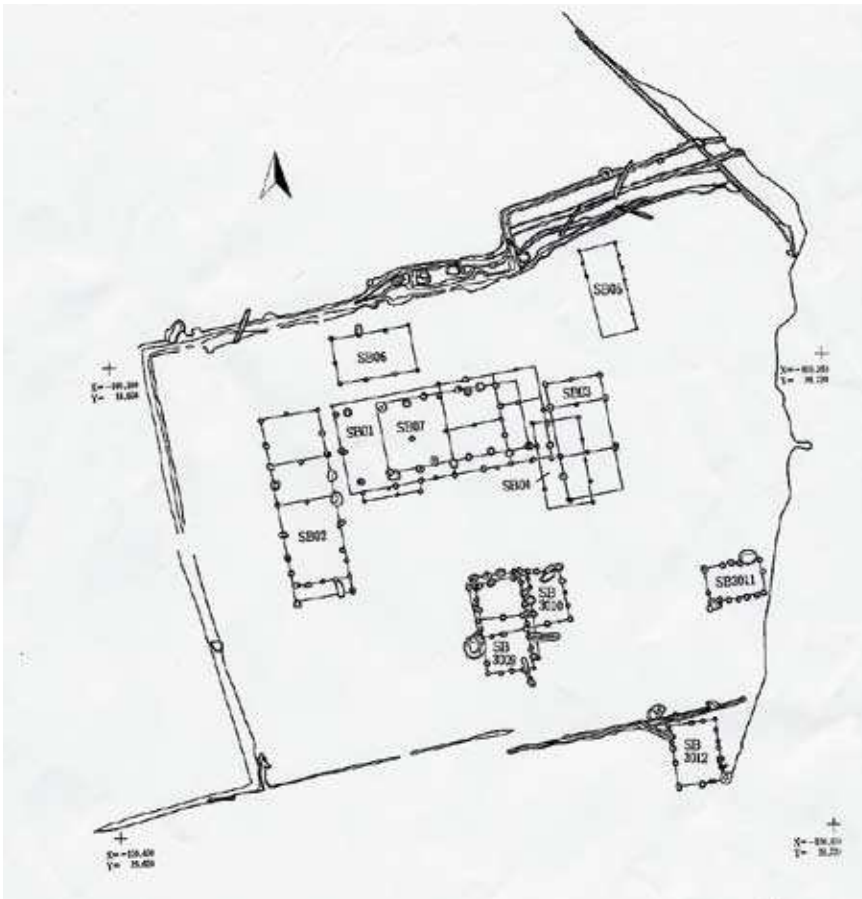


現地説明会の前夜、この陥し穴状遺構にタヌキが落ちていたらしく、穴の側面に爪痕が沢山付いていました。

道路建設に伴い、平成11、12、13年の3年間にわたり、現奥州市埋蔵文化財調査センターが、8,400㎡について発掘調査を行いました。その際に、近世の掘立柱建物跡が12棟検出され、1回建て直されていたことも確認されています。井戸跡や水場跡から出土した遺物（備前産陶器・磁器、瀬戸産陶器・香炉）

は、18世紀以降の年代のものであり、「下屋敷1軒」との記載に相当する屋敷跡ではないかと報告されています。

なお、この遺跡からは平安時代の竪穴住居跡6棟、縄文時代の土杭104基（陥し穴状遺構）も検出されています。



水沢市埋蔵文化財調査センター
調査報告書 第17集より



中野館



平泉藤原氏以降、鎌倉時代（1192年～）になり、葛西氏の家臣である柏山氏が胆沢の地方を治め、一族や旧臣を上・下胆沢地域に配属しています。

その時代と思われるものに「多田良伊豆守」の名前が中野に関連したものとして記述があり、中野館に住んだ人かと想像されます。

葛西氏の治世になると、中野館には千田与右（左）衛門の名前があります。

仙台藩統治直前の中野の地区は、引き続き戦いの功勞に対し褒美として分け与えられる土地となり、色々な武将（有力者）の名前が出てきます。

中野館は、周囲に1m近くの土塁・水堀があり、屋敷の北側と西東には竹藪が繁っています。



別雷神社 (雲南さま)

正平19年（1364）、陸奥守北畠顯信が巡視の折、村人の困窮を憂い、五穀豊穰を祈願して勧請とありますが、安永風土記には、明徳年中雲南権現社として草創との記述もあります。

神社敷地には、出羽三山につながる山伏の修験道場である清香院がありました。

別雷神社は、明治4年（1871）頃雲南神社から改称されたものと思われています。明治維新の時は、天皇を神とする政策で、神仏分離の令などに関連したものが、廃仏棄釈運動の中で神社とされた改称かも知れません。（旧村社のひとつ）

また、地元の人々の呼び名としては、今でも雲南さまと親しまれています。



胆江日日新聞 2008年(平成20年)7月22日

地元の魅力再発見

40人がふるさと探検

歴史ロマンに浸る

水沢・真城

水沢区の真城地区センター(佐藤直所長)主催の「真城ふるさと探訪教室」は21日、同区真城の

中野地区周辺で開かれた。地域住民ら約40人が参加し、身近に残る名所や旧跡を巡りながら地元

の魅力を見つけた。真城の文化、歴史、名所などを後世に伝えることが目的。04(平成16)



水沢区真城の中野地区周辺の散策を楽しむ参加者たち

年に始まり、ことごとし5回目を数える。毎回、地域住民がボランティアで講師を務めている。今回のテーマは「真城の歴史を巡る中野の散策」。同地区センターを発着所に北野天満宮、山の神社、古寺、中野館、別雷神社などを歩きながら見て回った。「雲南さま」の愛称で親しまれる別雷神社では、講師が「1364年に陸奥守北畠顕信が巡視の際、村人の困窮を憂い、五穀豊穡を祈願して勧請というのが通説だ

が、風土記には明徳年中(1390-1394)に雲南権現社として草創との記述もある」と紹介。参加者は又毛を取りながら熱心に聞き入り、歴史のロマンに浸っていた。同区真城字雷神の砂金匡さん(65)は「初回から欠かさず参加しているが、知らないことを知るといことは、とても楽しい。来年もぜひ企画してほしい」と満足げな表情で話していた。



「真城ふるさと探訪教室」に参加したみなさん

元気です

水沢区真城の中野地区に残る名所や旧跡を巡りました。地元の魅力を再発見できて大満足!

(同区真城の別雷神社で)